

大阪 必要量確保に向け入荷促進継続の動き

(大阪) 大阪地区の鉄スクラップ市況は概ね様子見状態。電炉側は入荷促進体制を継続しつつ、輸出商談の軟化や月替わりからの一部炉休要因によって、実勢値上げには難色を示したままにある。28日時点でのH2実勢値は5万3000~5万3500円見当だが、これを上回る買値が常態化している。

今週から月末環境に入りながらも、工場、老廃問わず、全体的な発生量の落ち込みや湾岸への流出が続いていることによって、電炉入荷に伸び悩みが見られる。28日から隣地区のJFE条鋼が追加値上げを実施し、府

外流出も見込まれるなかで、電炉筋にとっては入荷底上げや在庫回復を図っていかなければならず、荷動き次第で強化を迫られやすい展開には変わらない。

だが、輸出市場は軟化へ向かっており、湾岸集荷の継続性に不透明感が漂っている。また、東京製鉄関西サテライトヤードの27日からの値下げを受け、電炉筋によっては入荷の上振れが聞かれ、6月からは岸和田製鋼の炉休入りで需要の大幅な減退が見込まれるため、「裏値での必要量手当てにとどめ、実勢が押し上がることはなりづらいのでは」(ヤード業者筋)と指摘する。

日本鉄リサイクル工業会関西支部、第51回定時総会を開催

(大阪) 日本鉄リサイクル工業会関西支部は27日、大阪市北区のリーガロイヤルホテル大阪で第51回通常総会を開催した。当日は会員や賛助会員ら約90名が参加した。



あいさつをする
新浦支部長

定時総会では事業報告案など第1号~第6号議案まで全て可決された。第4号議案の役員改選では新浦州平氏(マキウラ鋼業社長)が支部長に就任、矢追大祐氏(大阪故鉄社長)が副支部長に就任した。続いて、大阪府警察本部生活安全部の渡邊浩史氏による「盗難特定金属製物品の処分の防止等に関する法律について」と題した講演会が行われた。6月から施行が開始する金属盗対策法の概要や規則についての説

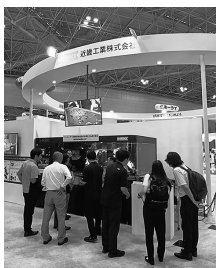
明を受け、参加者らは真剣な眼差しで耳を傾けていた。

閉会後は場所を移動して懇親会を開催。冒頭で登壇した新浦支部長は「世代交代という言葉に責任の重さを感じている。燃料の高騰や法改正など課題は多いが、循環型社会の形成や脱炭素化の流れの中で、鉄スクラップの価値は高まっていると思う。2028年に開催される関西支部主管の全国大会に向け、実行委員長に西川知宏氏(西川商工社長)を迎え、一丸となって魅力高め業界のさらなる発展に貢献したい」とあいさつした。その後は矢追副支部長による乾杯のあいさつを挟み、参加者らは活発な意見交換を行った。最後は前関西支部長の久宝利幸氏(共栄社長)による中締めあいさつを経て、盛会のまま閉会した。

近畿工業、2026NEW環境展に出展 来場者数は1,000人を超える

(兵庫) 破碎機・選別機メーカーの近畿工業(本社=兵庫県神戸市、和田和樹社長)は、5月20日~5月22日に東京ビッグサイトで開催された2026NEW環境展に出展し、ブースには1,000人以上の金属リサイクルや産業廃棄物処理事業者らが来場した。

今回は、AI搭載型非鉄選別ロボット「V-PICKER」、二軸せん断式破碎機「SHRED KING」、実機の4分の1のサイズの模型となる小型工業雑品用シュレッダー「V-BUSTER」を展示。「V-PICKER」の実演では、高度な選別精度に大きな関心を示す人々の姿やブースの



出展ブースの様子

中心で展示された「SHRED KING」に注目する来場者も見受けられた。また「V-BUSTER」は2017年の販売開始以降、リサイクル業者を中心に納入実績を伸ばしており、小型の工業系雑品や小型家電といった複合物の単体分離に優れていることから、同機

にも注目が集まっていた。

同社では定期的に同イベントへ出展しており、実機の展示や実演を行うことでより迫力のあるブースづくりを心掛けている。今後も積極的な広報活動により、業界内のシェアの拡大に注力していく方針だ。

サヤミツ産業 株式会社

兵庫県姫路市白浜町宇佐崎南2丁目29 TEL (079) 247-2510
FAX (079) 247-2511

ステンレス・製鋼原料・鑄造原料・アルミ・その他各種スクラップ

SAYAMITSU Inc.